

町の交差点



アジア太平洋子ども会議 年はパキスタンから3名が桂川町へ！

昨年は、新型インフルエンザにより中止となったアジア太平洋子ども会議のホームステイですが、今年はパキスタンから3名のお友だちが桂川町にやってきました。7月22日には、桂川町住民センターで夢・人・未来塾アンビシャス広場主催の歓迎会が催され、メローシュ、オカシャ、ハムザと桂川の子どもたち24名が歌やゲーム、昔懐かしい伝承遊びや茶道などを通して交流を行いました。最初は、お互いに緊張気味だった子どもたちも、2つ、3つとゲームが進んでいくにしたがっていつの間にか、身振り手振りを使ってコミュニケーションをとり、一緒になって走り回っていました。各ホームステイ先では、買い物やお出かけと様々な体験をした3名。瓜生宣明さん(土師二)の家でホームステイしたハムザは、100円ショップで大変興味をしめし、大喜びだったとのこと。ありとあらゆる生活雑貨が、僅かな店内に揃っているところに驚いていたそうです。また、今回のホームステイでは、どの家庭も食事には特に気を使ったとのこと。それは、パキスタンの宗教であるイスラム教では、食事に様々な制限があるためです。しかし、桂川の子どもたちにとっても、異国の文化や習慣に触れるよい機会になりました。パキスタンの子どもたちは、桂川町での様々な体験を通して思い出づくりと友情を育み、元気に帰っていきました。



▲ 指相撲を教わり、真剣な表情のハムザ(左)



▲ 体を使った日本の歌遊びを楽しむメローシュ(左)とオカシャ(右)

第33回 飯塚保護区保護司会桂川支部・桂川町 桂川町社会を明るくする運動大会

今年も桂川町総合福祉センター「ひまわりの里」で、第33回桂川町社会を明るくする運動大会が開催されました。これは、犯罪を犯した人の更生に理解を深めるとともに、犯罪や非行を防止する地域づくりを訴える大会で、今年は「子どもの現状と教育～現在は過去の結果、未来の原因～」と題して、桂川町教育委員会 穂坂和義 教育長が講演を行いました。桂川町では今後も、関係機関や学校、家庭、地域そして行政が連携して、社会を明るくする運動に取り組んでいきます。



うみがらす展2 ルペンな海からの贈り物にうっとり…

海に捨てられたガラスの破片が、長い年月に砂に洗われてできるシーグラス。このシーグラスでランプシェードなどを制作する伊藤哲三さん(土師一)の作品展覧会「うみがらす展2」が、7月25日から8月1日に桂川町住民センターで開催され、連日多くの見学者で賑わいました。淡く優しい光を放つシーグラスのできたランプシェードたちに、見学者からは「きれい～！」という言葉が、何度も何度も出ていました。